

7. これからの地域福祉活動と地域福祉カルテ

1 「廿日市市地域福祉計画」が期待する地域福祉活動

2015年度に策定された「第2期廿日市市地域福祉計画」（計画期間：2016～2020年度）では、基本目標や行動目標のなかで廿日市市の地域福祉を推進するために市民主体の地域福祉活動に期待する内容として、以下の点があげられています。

① 地域福祉に関わる活動人材の拡大（基本目標1）

地域自治組織やボランティアグループで地域福祉活動に取り組む人材の不足が課題といわれるなか、地域への愛着があり地域福祉活動への意欲がある市民をいかに実際の活動につなげるかが重要となります。

② 地域福祉に参加する住民の裾野の広がり（基本目標1）

学生のボランティア活動への関心の高まりが見られる一方で、実際には若い世代の地域福祉活動への参加意欲が乏しいなか、参加のきっかけとなる最初の一步の活動づくりや、必要に応じて参加できる機会をつくる工夫が求められています。

③ 地域課題にあった地域福祉活動の目標やビジョンづくり（基本目標2）

地域の生活環境が急速に変化するなか、地域の課題も急速に変化しています。限られた地域の活動人材・財源で、地域の課題の変化に対応した地域福祉活動のメニューや内容を見直し、これにあった目標やビジョンを検討することが必要です。

④ 地域課題の情報の共有（基本目標3）

介護や福祉の相談機関や地域福祉活動においても、個々の生活課題の相談から得られる課題を地域全体の課題として捉えなおすことができていません。このような個々の相談内容から課題を整理し、共有することにより、複数の支援者が連携して課題に対応でき、予防策も検討できます。

⑤ 地域課題の「見える化」（基本目標4）

複合的な福祉課題を抱えていても、そこにかかわる人たちの間で情報共有ができずにサービスや支援制度につながらないことを解消するため、要支援者のプライバシーに配慮しながら地域課題の情報の顕在化と共有を図ることが必要です。

2 地域福祉活動を活かすために「地域福祉カルテ」の活用に必要なこと

これらの「廿日市市地域福祉計画」で期待されている地域福祉活動を行うために、地域福祉カルテの活用によってできることは、次のとおりです。

① 市民の地域課題への気づきをうながす機会づくり

地域福祉活動の人材を豊かにするためには、より多くの市民が地域の課題を自ら感じ、気づいて、自発的に地域福祉活動に参加しようとする場づくりが必要です。その際に地域課題を考える材料として、地域福祉カルテの情報をきっかけにすることができます。

② 地域の課題対応の方針の検討

地域自治組織等の事業計画を策定する場や、複数の地域自治組織等が連携した活動を検討する際などに、地域福祉活動を行う人たちが課題の全体像を把握し、対応の優先順位などの方針を検討する場合、その地域の生活課題や地域課題の全体像を示した地域福祉カルテは不可欠です。

③ 専門職等との課題共有と課題対応

市民の個々の生活相談を受けている専門職等が、個別の生活課題と地域課題とのかかわりを検討する際に、地域アセスメントを中心とした地域福祉カルテの内容が重要な素材となります。その際に、市民も課題解決を担う支援者の一員として専門職等と連携してその検討に参加することが必要です。

3 地域福祉活動の活性化と地域福祉カルテの活用

従来の地域のような必然的に地域にかかわらざるを得ない環境から、現代のような市民の関心に基づく地域福祉活動へのかかわりが主流となりつつある今、市民の自発的意思による活動の活性化はますます重要となってきました。

多くの市民が地域福祉活動にかかわる可能性を秘めていると考えた時、その活動が開花するのは、地域の課題の「気づき⇒学び⇒活動」の展開です。

こうした展開の各場面で活用できるのが、地域の現状や課題を整理し示した地域福祉カルテです。市民が地域福祉カルテを有効に活用し、豊かな地域福祉活動により、全ての市民が暮らしやすい地域を実現していくことを目指します。